| Ｃ―１　指導案 |
|---|

# 芸術科（音楽）学習指導案

石川県立羽咋高等学校

指導日時・教室　　平成　２１　年　１０　月　１３　日（火）６限目　教室名　音楽室
対象生徒・集団　　普通科１年生　４０人（内訳　１２Ｈ４０人）
科　　目　　名　　音楽Ⅰ　　　（単位数　２　）

１　題材名　　　インド古典音楽の特徴を感じ取ろう
　主教材：シタール演奏「ラーガ・ヤマン」「ドゥーン」
　関連教材：バグパイプ演奏「アメージンググレイス」サックス演奏「アメージンググレイス」

２　題材の目標
・インド古典音楽固有の音階や音色、ドローンに関心をもって意欲的に鑑賞したり創作表現したりする。【関心・意欲・態度】
・インド古典音楽固有の音階や音色、ドローンなどの特徴を感じ取って聴き、それを生かして創作表現を工夫する。【芸術的な感受や表現の工夫】
・インド古典音楽のイメージをもって、インド古典音楽固有の音階を生かして創作表現をする技能を身に付ける。【創造的な表現の技能】
・インド古典音楽固有の音色やドローンなどの特徴を理解して楽曲を聴き取り、そのよさや美しさを味わっている。【鑑賞の能力】

３　指導に当たって
（１）生徒観
１２Ｈは元気で明るく、感じたことを言葉で発し積極的に音楽表現する生徒が多数いる。活動的な反面、落ち着いて考えるのが得意でない生徒も少なくない。９月に行った鑑賞の授業では、親しみやすい西洋古典音楽を取り上げ、音楽の構成要素である「旋律」を知覚すること、また２つの旋律の現れ方を感じ取って聴き、感じたことを言葉で表現することを学んだ。今回、世界の諸民族の音楽を取り上げることで、他国の音楽文化を尊重する態度を養いたい。

（２）教材観
「世界の諸民族の音楽」といっても、西洋古典音楽やポピュラー音楽以外に世界には多種多様な音楽が存在する。それらの音楽に共通している「ドローン（持続音）」構造から民族音楽を鑑賞の授業を通して、世界の諸民族の音楽を理解するきっかけになるのではないかと考えた。また、インド古典音楽固有の音階を用いて創作表現活動を行うことで、民族音楽の即興性を体験することができると考える。

（３）指導観
「ドローン」（持続音）の特徴に気付き、聴き取らせるために「アメイジング・グレイス」を２種類（ドローンのある音源とない音源）比較鑑賞し、インド古典音楽の特徴であるドローンを知覚・感受させるようにする。インドの代表的な民族楽器である「シタール」や、ドローンを奏でる「タンブーラ」の音が鳴る「タンブーラ・マシーン」を活用して興味・関心をもたせ、その特徴を感じ取らせたい。ドローンを段階的に知覚・感受させてから DVD 鑑賞をして、知覚した楽器それぞれの特徴を理解しながらその楽曲全体を味わわせたい。また、創作表現活動は初めてなので、創作に苦手意識を持たせないように五線譜は使わずにインド古典音楽特有の音階の５つの音を使ったドレミのワークシートを用いる。無作為に選んだ音で、誰でも簡単に旋律を作ることができる、という喜びや楽しさを体験させたい。最後に創作発表会を目標に、グループによる創作を通してみんなで１つの音楽をつくっていく体験を重視し、表現したいイメージを伝え合ったり、他者の表現意図に共感するように指導していきたい。

４　題材の指導計画（総時数　６　時間）
第一次　インド古典音楽の特徴を感じ取り、根拠を持って批評しよう　（２時間）
第二次　インド古典音楽特有の音階を使って旋律を作ろう　（４時間）
　１時　インドの音階で旋律を作ろう（１人・ペア）・・・本時
　２時　作った旋律にふさわしいドローン・リズムを作ろう①（８人）
　３時　作った旋律にふさわしいドローン・リズムを作ろう②、作った旋律の練習

４時　創作発表会

５　本時の指導と評価の計画（第＿一＿次　第＿２＿時）

（１）本時のねらい

・インド古典音楽の音階の特徴に関心をもち、創作する喜びを味わう。　【関心・意欲・態度】

・インド古典音楽の音階の特徴を感じ取って、それを生かして創作表現を工夫する。

【芸術的な感受や表現の工夫】

（２）準備・資料等

鍵盤シート、創作用ワークシート、リコーダー運指表・カード（５音）、アルトリコーダー、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカ

（３）本時の展開

| 時間 | 学習内容 | 生徒の学習活動 | 教師の指導・留意点 | 評価規準<br>【観点】（評価方法） |
|---|---|---|---|---|
| | | | ♪インド音楽の雰囲気をつかみやすくするために、授業前からCDをかけておく。 | |
| 導入<br>5分 | インド古典音楽固有の音階を知る | ○インド古典音楽固有の音階を知る<br>・長調の音階と聴き比べる<br>イ長調の音階<br>ラシド♯レミファ♯ソ♯ラ<br><br>インドの音階<br>ラシ♭ド♯レミファソ♯ラ<br>・長調の音階の第２音と第６音が半音下がったもの。 | ○たくさんある音階の中の一つを使うことを告げる。<br>○雰囲気の違いを感じさせるため、リコーダーでイ長調の曲とインドの音階の曲を比較して聴かせる<br>○タンブーラ・マシーンを使って、雰囲気を作る。<br>○長調の音階とインド固有の音階を、鍵盤シートを配って一人一人確認する<br>○黒板に鍵盤シートを提示する。 | |
| | | ○本時の課題を知る。 | | |
| 展開<br>33分 | | インドの音階で旋律を作ろう！ | | |
| (3) | インド古典音楽固有の５つの音を使った創作 | ○　創作方法を知る。<br><br>ラシ♭ド♯レミは<br>インドの音階の初めの５音であることを知る。 | ○どの音を選んでも旋律になるので、気楽に音を選んで作ってみるよう働きかける。<br>○簡単に創作できるようにワークシートにはインド音階固有の５つの音のみを記載する。 | |
| (7) | | ○一人で旋律を４小節作る。<br><br>○できたら音を鳴らして確認する。 | ○ワークシートで１マスが４分音符であることや長い音符にするときの記入方法を説明する。<br>○音を確認しやすいように運指カードと鍵盤カードを黒板に提示する。<br>○リコーダーや鍵盤ハーモニカを使って音で確認しながら工夫するよう指示する。 | インド古典音楽の音階の特徴に関心をもち、創作する喜びを味わおうとする。<br>【関心・意欲・態度】<br>（観察・ワークシート）<br>〔Ｃ→Ｂへの手立て〕<br>５つの音を適当につなげるだけで自然に旋律ができることの安心感や自信をもたせるように助言する。<br>〔Ｂ→Ａへの手立て〕<br>沢山旋律をつくってみて満足感を味わわせるようにする。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| （15） | | ○ペアでつなげて演奏してみる。<br>○ペアで工夫してまとまりのある旋律を完成させる。 | ○ペアで改善したいところがあったら相談して工夫していくよう指示する。<br>・順番を変えて演奏してみよう。<br>・終わった感じがするにはどのように工夫したらよいか考えながら作ってみよう。 | インド古典音楽の音階の特徴を感じ取って、それを生かして創作表現を工夫している。<br>【芸術的な感受や表現の工夫】<br>（ワークシート、観察、発表） |
| （8） | | ○全体でいくつかのペアが発表する。<br>・終わった感じがしたな<br>・インドの雰囲気が出ていたな。<br>・同じモチーフが繰り返されると面白いな。 | ○タンブーラ･マシーンでドローンの音を入れて雰囲気を出すようにする。<br>○創作表現を工夫しているペアの作品を紹介して、聴かせるようにする。<br>○どんな工夫があったか言葉で表現させる。<br>○音楽的な根拠を述べさせる。 | 〔Ｃ→Ｂへの手立て〕<br>反復･変化などの構成を工夫しながら作るように助言する。<br>〔Ｂ→Ａへの手立て〕<br>楽器で演奏し、旋律の組み合わせを工夫するように助言する。 |
| まとめ<br>7分 | ふりかえり | ○自己評価シートで学んだことや工夫したことを書く。 | | |
| | | インドの音階での旋律づくりは楽しいな。 | | |
| | 次回の予告 | | ○グループで厳選した16小節の旋律を作り、その旋律にふさわしいドローンやリズムを考えて作ることを告げる。 | |